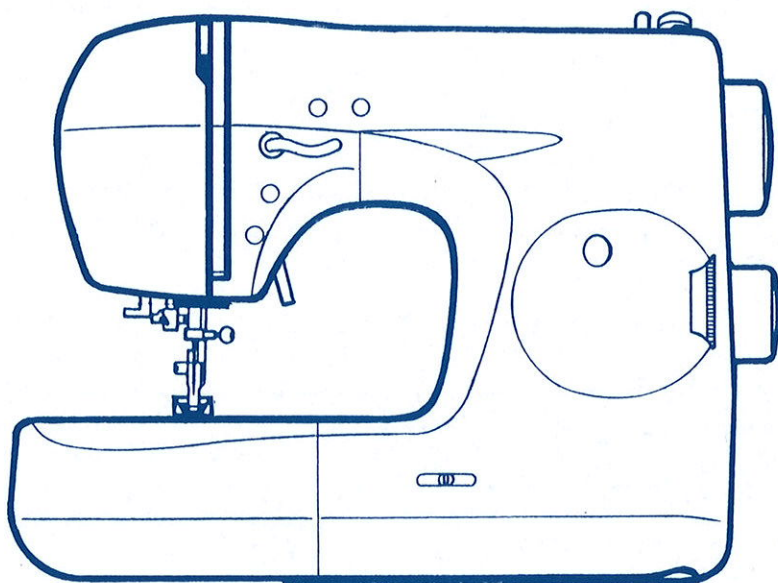


**baby lock**  
mate

ご使用のてびき



- ★ ご使用前にこの『ご使用の手引き』を十分お読み下さい。
- ★ この『ご使用の手引き』は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管して下さい。

# ＝ 安全にご使用いただくために ＝

◎ご使用の前に、この『安全上の注意』をよくお読みの上、正しくお使いください。

◎お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。

## 絵表示について

この『安全上の注意』では、使用者が製品を安全に使用できるように、誤った取り扱いをする事によって生じる内容を次のような絵表示によって区分しています。いずれも重要な内容ですので必ず守ってください。

 **警告:** 取り扱いを誤った場合、人が死亡又は重傷を負う危険が生じる事が想定される内容を示しています。

 **注意:** 取り扱いを誤った場合、人がケガをしたり、物的損傷が発生したりする恐れがある内容を示しています。

絵表示の例   

 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

 記号は使用者の行為に注意を呼びかける内容であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。

 記号は使用者の行為を指示強制したりする内容であることを告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。

## **警告** 感電、火災の恐れがあります



一般家庭用交流電源 100 V でご使用ください。

禁止



コンセントから抜く時は、必ずアダプターを手で持って抜いてください。コードは引っ張ると内部で脱線し、焼けることがあります。



以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。

- ・ミシンのそばを離れる時
- ・ミシンを使用した後
- ・ミシン使用中に停電した時

注意



コードは無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったりしないでください。コード内部で脱線し、焼けることがあります。

禁止



感電注意














ミシン、電源コード、電源プラグ等を水に濡らしたり、水に落としたりしないでください。万一、濡れた場合は使用しないでください。



分解禁止

お客様自身での分解、改造はしないでください。

**⚠ 注意 感電、火災、けがの原因となります**

 <p>禁止 ミシンの内部に異物やドライバーなどを差し込まないでください。</p>	 <p>注意 お子様のご使用になる時や、お子様の近くで使用される時は、特に安全に注意してください。</p>
 <p>禁止 ミシンには正規の部品（ボビン・針等）をご使用ください。</p>	 <p>禁止 以下のことをする時は、電源スイッチを切ってください。 ・針を交換する時 ・上糸、下糸をセットする時</p>
 <p>注意 最初のひと針は、必ずプーリーを手で回し、布に針が刺さった状態から、初めて操作してください。</p>	 <p>注意 ミシンを動かす時は、蓋カバーを閉じてください。</p>
 <p>注意 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。</p>	 <p>禁止</p> <p>ミシンに以下の異常がある時は、すみやかに使用を停止し、お買い求めの販売店、または販売元で点検、修理、調整をお受けください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正常に作動しない時</li> <li>・水に濡れた時</li> <li>・落下などにより破損した時</li> <li>・電源コード、プラグ類が破損、劣化した時</li> <li>または異常に熱くなった時</li> </ul>
 <p>禁止 曲がった針はご使用にならないでください。</p>	
 <p>禁止 縫う時は布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。</p>	
 <p>禁止 シンナー、ベンジン等で拭いたりしないでください。</p>	
 <p>注意 最初にミシンを使用するときは、押え金の下に布切れを置いて、糸を使用しないで、ミシンを操作し十分に油気を取り除いて下さい。</p>	 <p>注意 ミシンにほこりがたまらない様にしてください。</p>

**「自動停止装置」について**

- ◆ このミシンは、誤った操作などをしたとき、自動的に運転を止める安全装置がついています。
- ◆ たとえば、縫製中に糸がかまにくい込んだりしたようなとき、安全装置がそれを感知し、3秒以内に自動的に電流を遮断し、モーターを止めます。
- ◆ モーターが止まったら、糸がらみなどミシンを止める原因となったものを取り除いてください。

# も く じ

## 1. ご使用になる前に

各部の名称	2 ~ 4
電源のつなぎ方	5
「自動停止装置」について	5
操作ボタン	6
スピードコントロール	6
糸ごまのセット	7
押え上げ	7
フリーアーム(筒縫いのしかた)	7
返し縫いレバー	7
下糸の巻き方	8 ~ 9
ボビンのセット	9
針と糸と布地の選び方	10
針のとりかえ方	10
上糸のかけ方	11 ~ 12
自動糸通し器の使い方	12
下糸の引き上げ方	13

## 2. さあ縫ってみましょう

ミシンのセットのしかた	14
直線縫い	15
仮縫い(しつけ縫い)	16
ファスナーつけ、パイピング	16
縫いにくい布地の縫い方	
薄物・厚物・段縫い	17
糸調子のとり方	18
押え金のとりかえ方	19
ジグザグ縫い	20
ミシンのセット	
サテンステッチ(密着縫い)	20

## 点線ジグザグ縫い

裁ち目かがり、つくろい縫い	21
かくし縫い(ブラインドステッチ)	22
つき合わせ縫い	23
ファゴット	23
シエル	23
スーパー縫い(ストレッチステッチ)	24 ~ 25
直線伸縮縫い・ジグザグ伸縮縫い	
オーバーエッジ縫い・オーバーロック縫い	
エラスチックオーバーロック縫い	
スモッキング縫い・二重ロック縫い	
ヘリボン縫い	
ボタンホール(ボタン穴かがり)	26 ~ 28
ボタンホール押えの使い方	
縫い始めのセット・縫い方	
芯入りボタンホール・縫目のバランス調整	

## 3. ミシンのお手入れ

かま及び送り歯の掃除	29
電球の取りかえ	30

## 4. ミシンの調子が悪いとき、 次の原因を確かめましょう

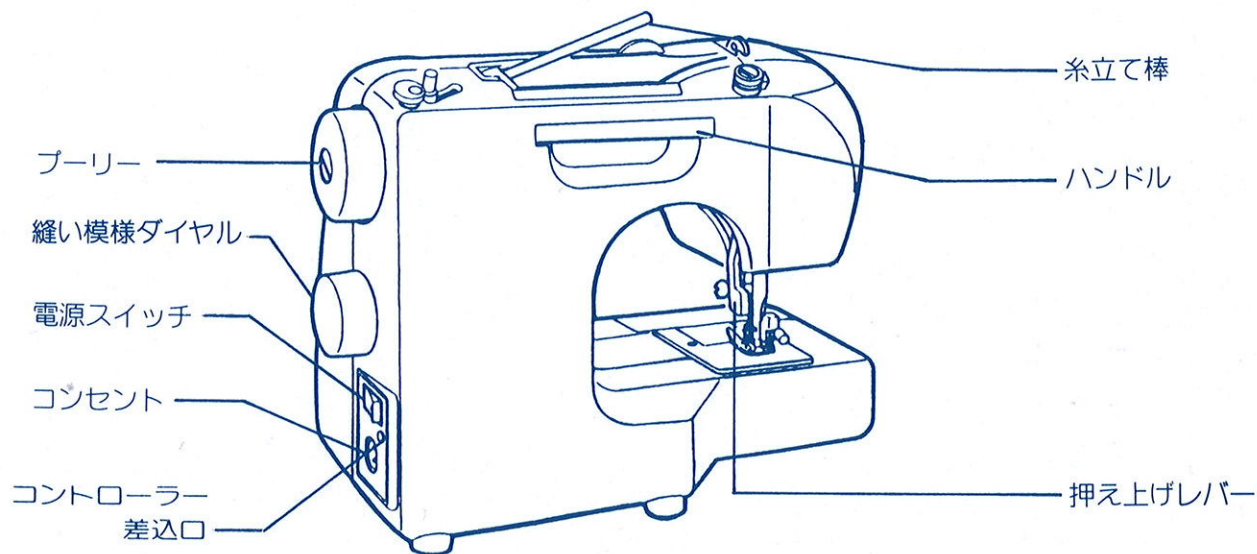
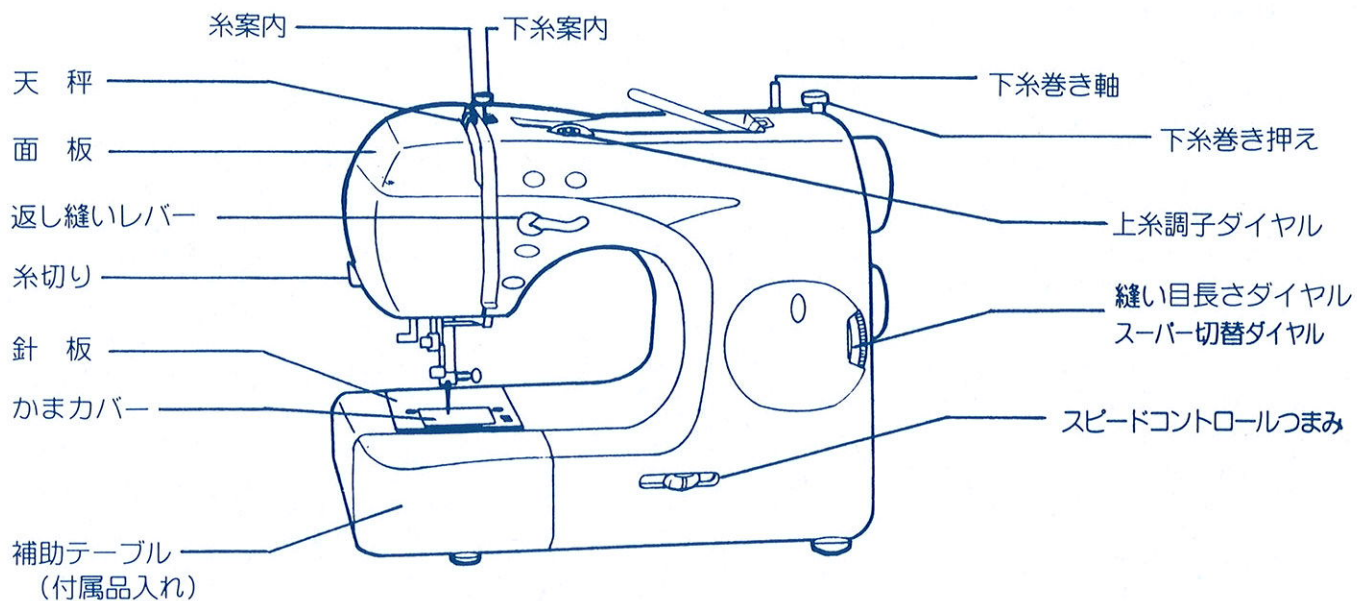
## 5. フットコントローラーの使い方

### ミシンの仕様

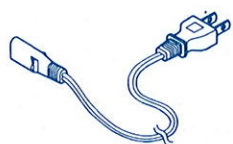
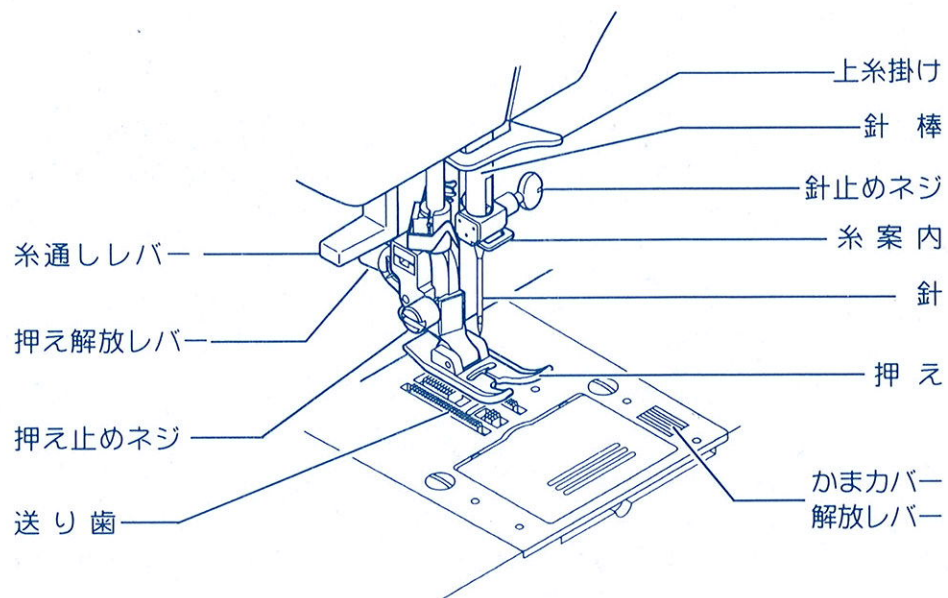
本体寸法	: 巾35×奥行16×高さ28 (cm)
本体重量	: 6.5 kg (補助テーブル付き)
定格電圧	: AC100V
定格消費電力	: 75W (モーター60W ライト15W)
定格周波数	: 50/60Hz

# 1. ご使用になる前に ……

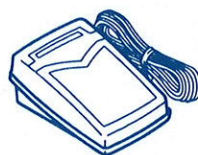
## 各部の名称



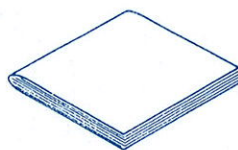
(各部の名称)



電源コード

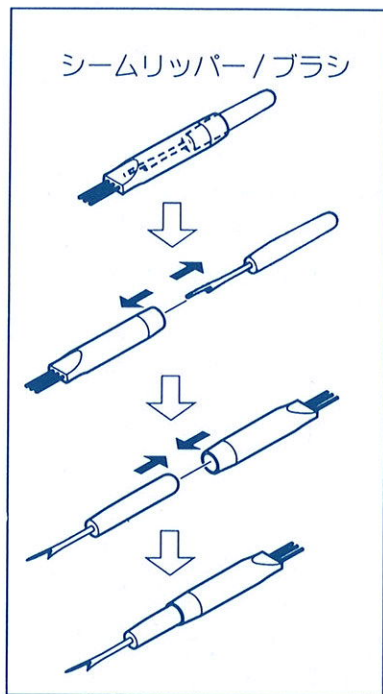
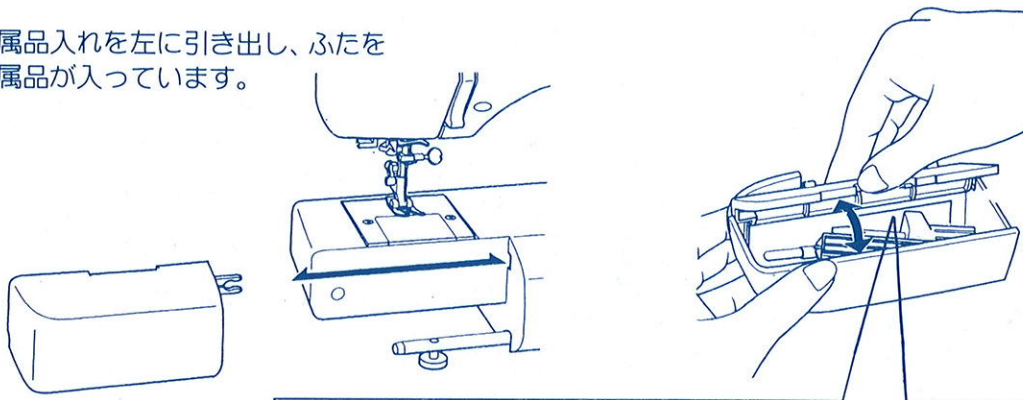


フットコントローラー  
(別売)



説明書

図の様に付属品入れを左に引き出し、ふたを開けると付属品が入っています。



シームリッパー/ブラシ



## 電源のつなぎ方

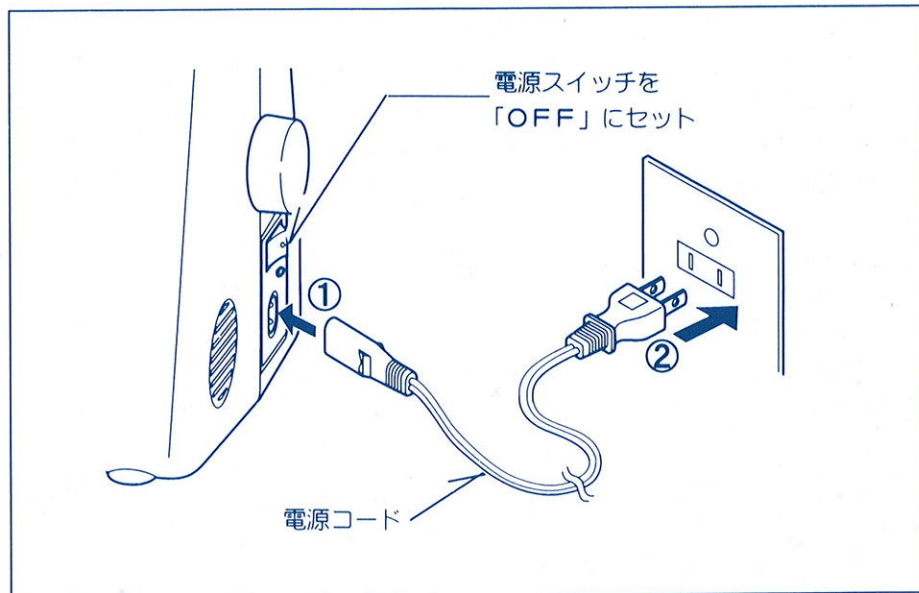
電源スイッチを「OFF」にしてください。

電源コードのプラグを①、②の順にさしこみます。



注意

ミシンを使用しないときは、必ず電源スイッチを切り、電源コードを電源から抜いてください。



※ フットコントローラーを使用する場合  
(33 ページ参照)

## 「自動停止装置」について

- ◆ このミシンは、誤った操作などをしたとき、自動的に運転を止める安全装置がついています。
- ◆ たとえば、縫製中に糸がかまにくい込んだりしたようなとき、安全装置がそれを感知し、3秒以内に自動的に電流を遮断し、モーターを止めます。
- ◆ モーターが止まったら、糸がらみなどミシンを止める原因となったものを取り除いてください。
- ◆ 次に、プーリーを手前に回してみてもシンが動くようになったかを確認した上で、再度スタートボタンを押してください。



注意

問題が解決しない場合は、販売店または弊社までお問い合わせください。



## 操作ボタン

### ◆スタート・ストップボタン

電源スイッチを「ON」にした後、このボタンを押すとミシンが動き出します。もう一度押すと、針は常に上に上がった位置で止まります。

⑧別売のフットコントローラーの接続中は、スタート・ストップボタンは使用できません。

### ◆クイックスローボタン（最低速縫い・停止スイッチ）

ミシンが動いているときにこのボタンを押すと、瞬時に速度が落ちゆっくり縫い始めます。押し続けている間だけゆっくり動き続け、ボタンから手はなすとミシンは停止します。

⑨このボタンはミシンをスタートさせるボタンではありません。

### ◆一針縫いボタン（一針縫い）

電源スイッチを「ON」にします。

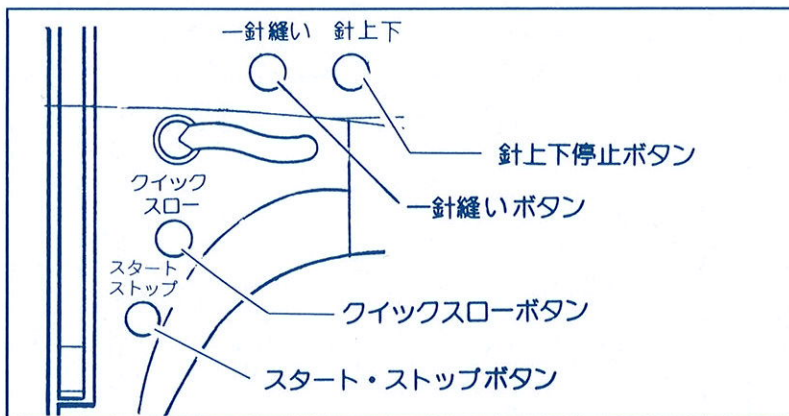
このボタンを押すと、一針だけ縫い停止します。

### ◆針上下停止ボタン

電源スイッチを「ON」にします。

このボタンを押すと、針が最下点で止まります。

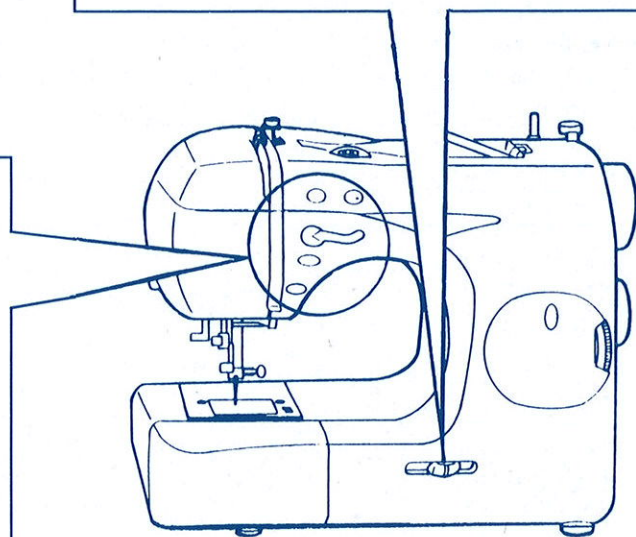
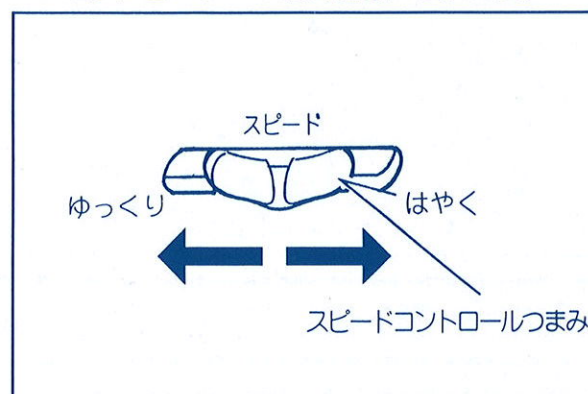
もう一度押すと、針が最上点で止まります。



## スピードコントロール

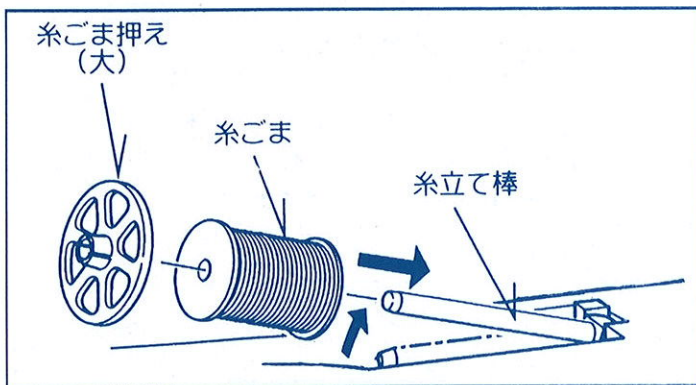
このミシンには電子回路が内蔵されており、自由に速度調整が可能で、つまみを右に動かすとスピードが早くなり、左に動かすとスピードが遅くなります。

⑩別売のフットコントローラーを使用する場合、スピードコントロールの設定位置が、フットコントローラーの最高速度になります。



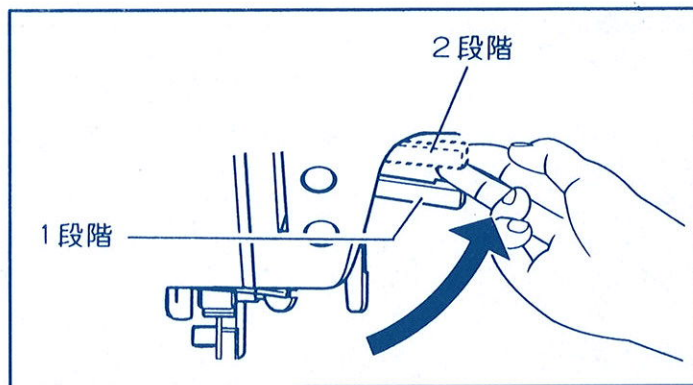
## 糸ごまのセット

糸立て棒に糸ごまを差し込み、糸ごま押えをかぶせます。  
小さいサイズの糸ごまを使用するときは、糸ごま押え(小)  
を使用します。



## 押え上げ

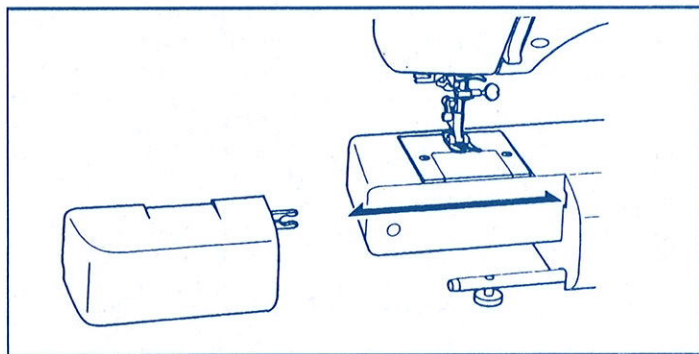
縫うときは、押え上げレバーを下げておきます。



## フリーアーム (筒縫いのしかた)

補助テーブルを左に引っ張って外すとフリーアーム型になります。

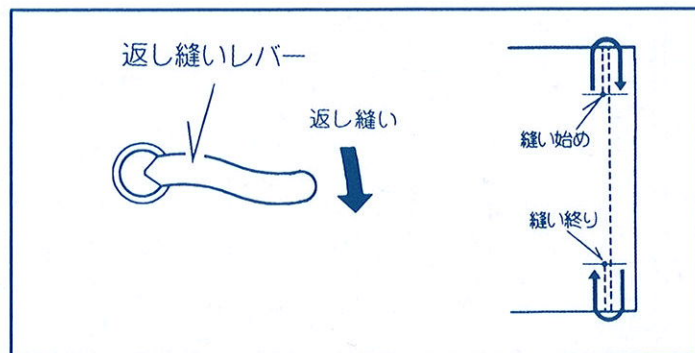
補助テーブルをもとに戻すときは、テーブルをミシンに沿ってすべらせながら、所定の位置に差し込みます。



## 返し縫いレバー

縫い始めと縫い終わりの数針は返し縫いを使うのが最適です。  
これは止め縫いと呼ばれていますが、縫い目の端をしっかり  
と止め、ほどけないようにします。

レバーを下に押し下げると、最低速で返し縫いをはじめます。  
レバーをはなすと、ミシンは止まります。

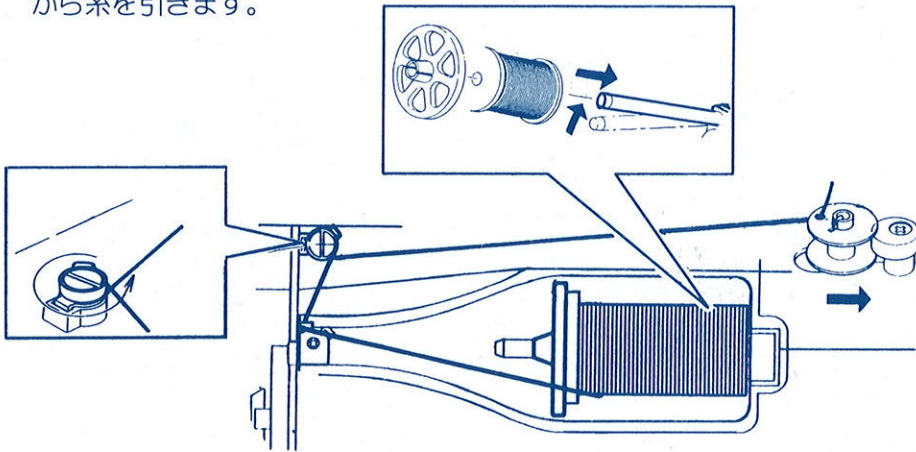


## 下糸の巻き方

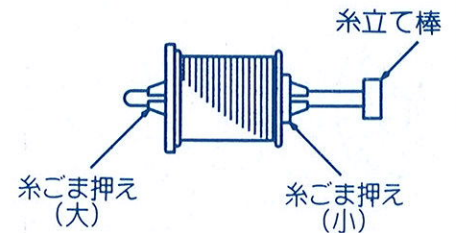
1 糸立て棒に糸ごまを入れ、糸ごま押えをかぶせます。

\* 下糸を巻く時糸立て棒に糸が巻きつく場合

2 下糸巻き案内を經由して糸ごまから糸を引きます。



糸ごま押え(小)を使用し下記のように糸ごまを糸立て棒先端にセットしてください。

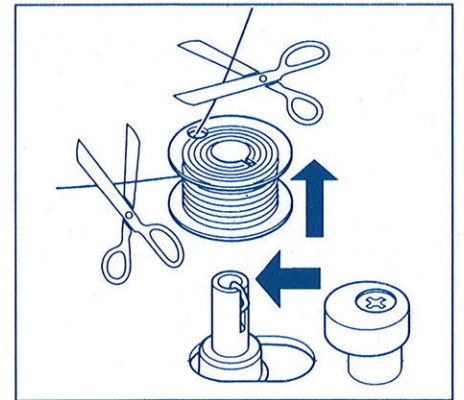
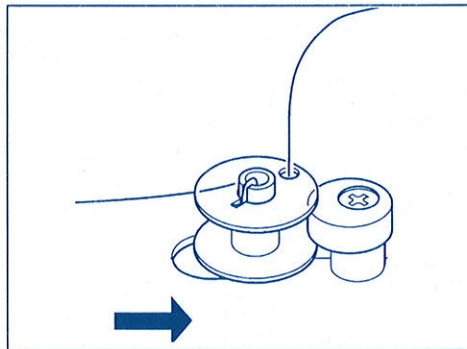
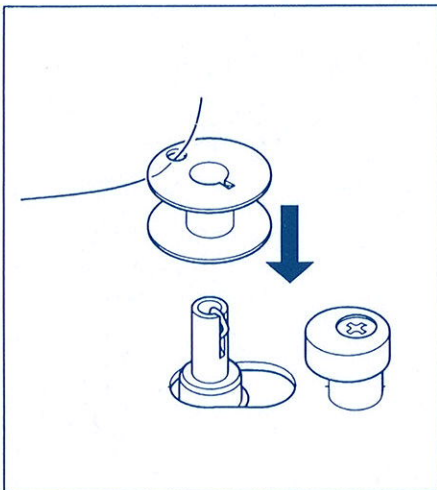


糸ごまの台座として使用する事で糸立て棒に糸が巻きつく事を防ぎます。

3 ボビンの穴に糸を通し、ボビンを下糸巻き軸にはめこみます。

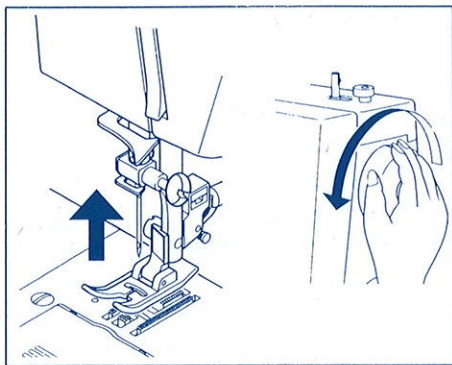
4 糸の端を持ち、ボビンを右に押しします。スタート・ストップボタンを押して糸を巻きます。コントローラー使用の場合はコントローラーを踏んで糸を巻きます。(糸を巻いている間は針は動きません。)ボビンが数回転したら、糸を離してください。

5 下糸が一杯になって、ボビンの回転が止まったら、すぐにスタート・ストップボタンを押してミシンを止めます。下糸巻き軸を左にもどし、ボビンを外し、糸の端を切ってください。

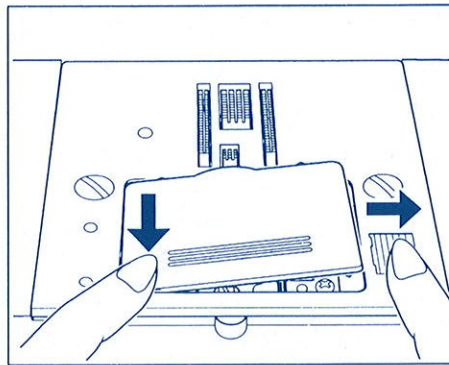


## ボビンのセット

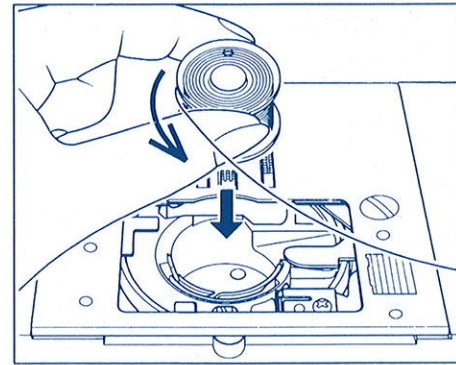
**1** プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。



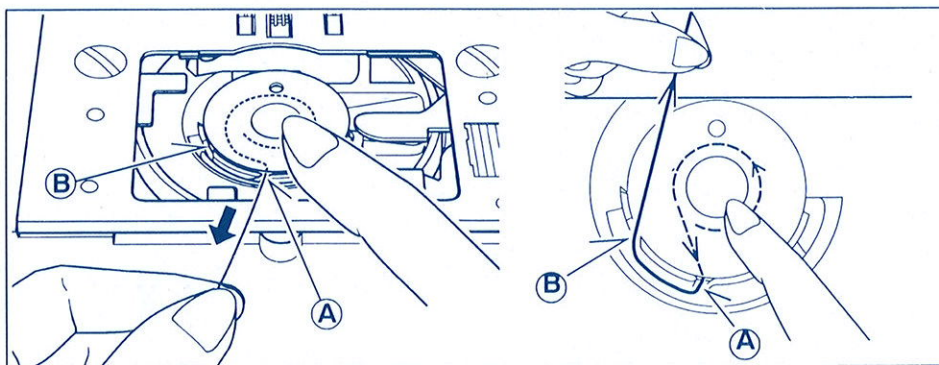
**2** かまカバーの左端を押しながら、解放レバーを右に押してはずします。



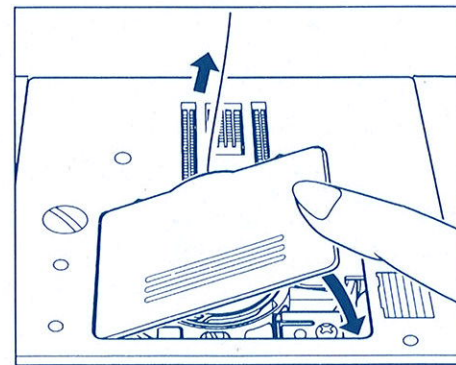
**3** 糸の端を矢印の方向に出してボビンを入れます。



**4** ボビンを指で押えながら、糸を手前のみぞ **A** から **B** にかけてるようにして後側に出します。



**5** 糸を10 cmほど引き出し、かまカバーを取り付けます。



## 針と糸と布地の選び方

- ※ H A × 1 家庭用ミシン針を使用してください。
- ※ 布地に適した針と糸を使用してください。
- ※ 上糸と下糸は通常同じ種類の糸を使います。
- ※ 曲がった針や先の丸くすりへった針は使用しないでください。
- ※ 縫いにくい布地の縫いかたは 17 ページを参照ください。

布 地	針	糸
薄地デシン 薄 絹 地	9番 (細い)	120番 100番
薄 物 布 地	11番 (やや細い)	100番 80番
キャラコ 木 綿 地 サージ 伸 縮 布 地	14番 (普通)	60番 50番
毛 織 物 厚 地 類	16番 (太い)	40番 30番

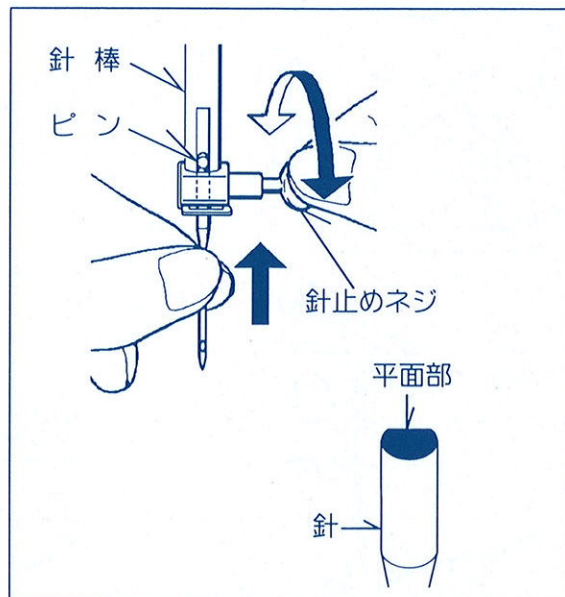
※ 伸縮布地等、目とびしやすい布地にはニット針の使用をおすすめします。

## 針のとりかえ方



必ず電源スイッチを切ってください。

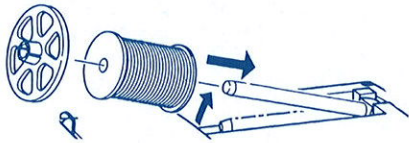
- 1 プーリーを手前に回し、針棒を最上点にあげます。
- 2 針止めネジを手またはネジ回しでゆるめ、針をはずします。
- 3 新しい針の柄の平らな面を後側に向けて持ち、針が針棒のピンに当たるまで差しこみます。
- 4 手またはネジ回しで針止めネジをかたくしめます。



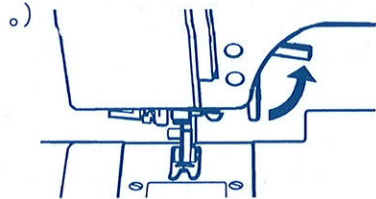
# 上糸のかけ方

◆まず上糸をかける前に行なってください。

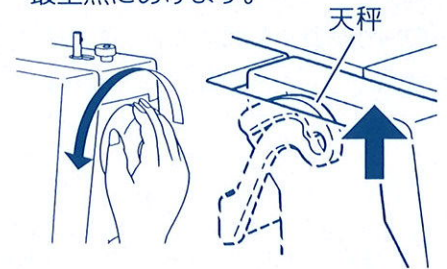
A. 糸ごまと糸ごま押えをつけ  
てください。



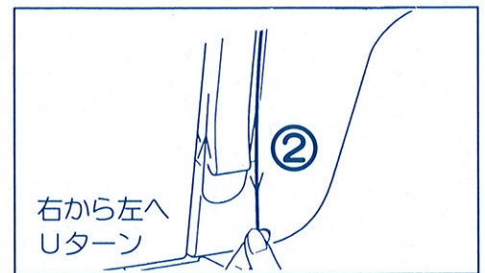
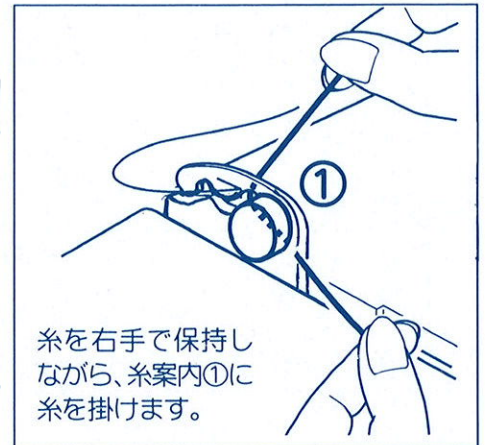
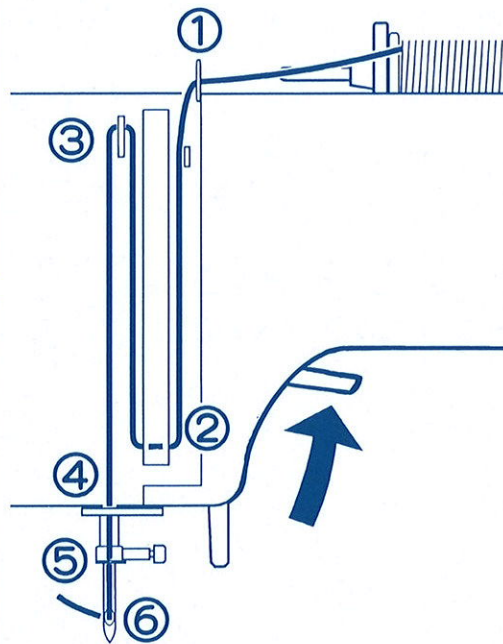
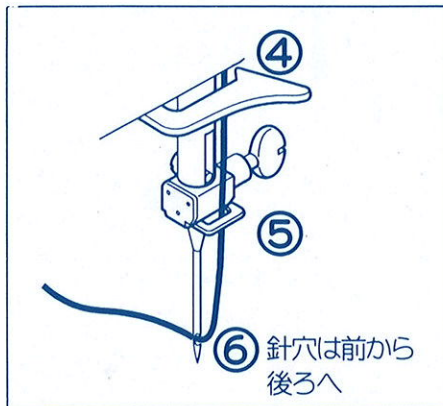
B. 必ず押え上げレバーを上げます。(押え上げ  
レバーを上げないと、糸調子がとれません



C. プーリーを手前に回して、天秤を  
最上点にあげます。



◆図の番号順に糸をかけます。



## 自動糸通し器の使い方

押え上げを下げます。プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。

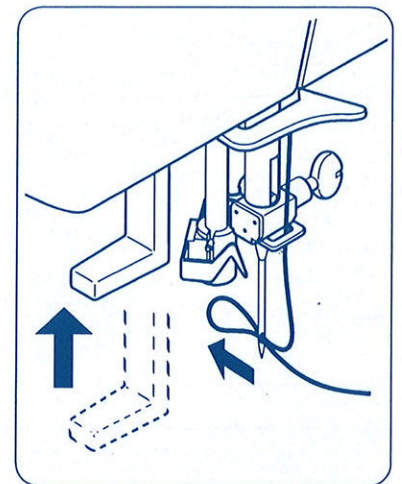
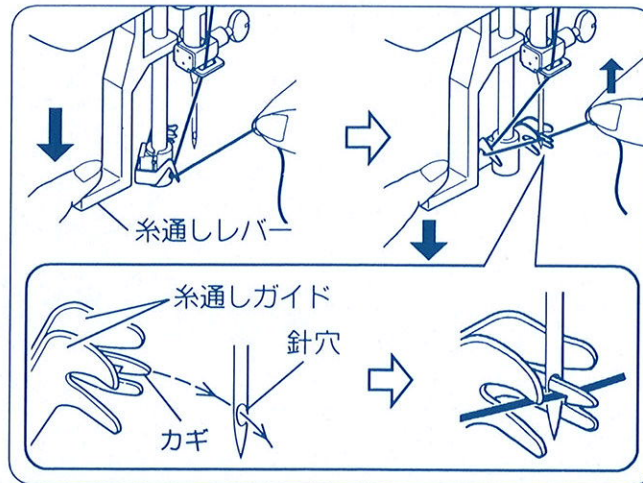
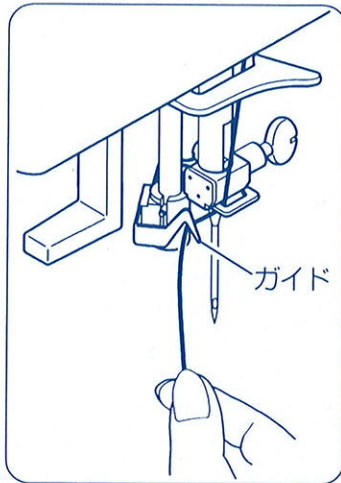
**1** 右手に糸を持ち、ガイドの右から左へ掛けます。

**2** **糸通しレバーをまっすぐ押し下げます。**

さらに、レバーを押し下げると糸通しガイドが時計方向に回転し、カギが針穴に通ります。糸をカギに引っかけます。糸の端を手前上方に持ってきて軽く持ちます。

**3** 糸通しレバーをはなすと、糸が針穴に輪になって通りますので、輪になった糸を後側に引き出してください。

①注 針穴にカギが通らないままムリに押し下げるとカギが曲がり、針穴に通らなくなることがあります。



①注 細い針に太い糸を使うと、糸通しが出来ません。

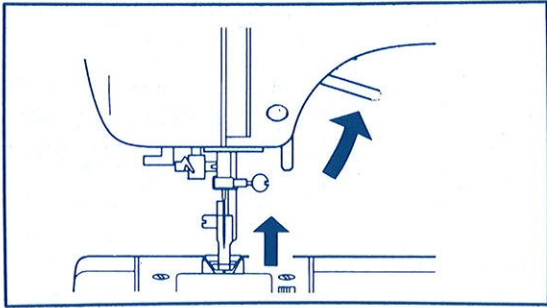


注意

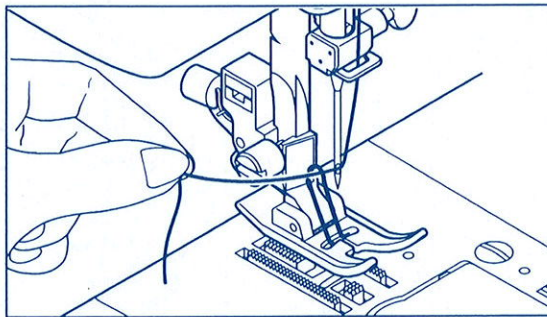
ミシンが動いているときに糸通しレバーを下げると、故障の原因になりますのでご注意ください。

## 下糸の引き上げ方

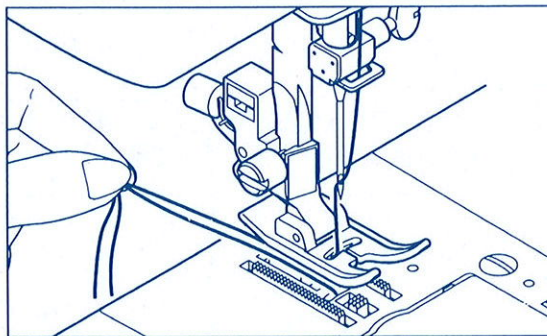
1 押え上げレバーを上げてください。



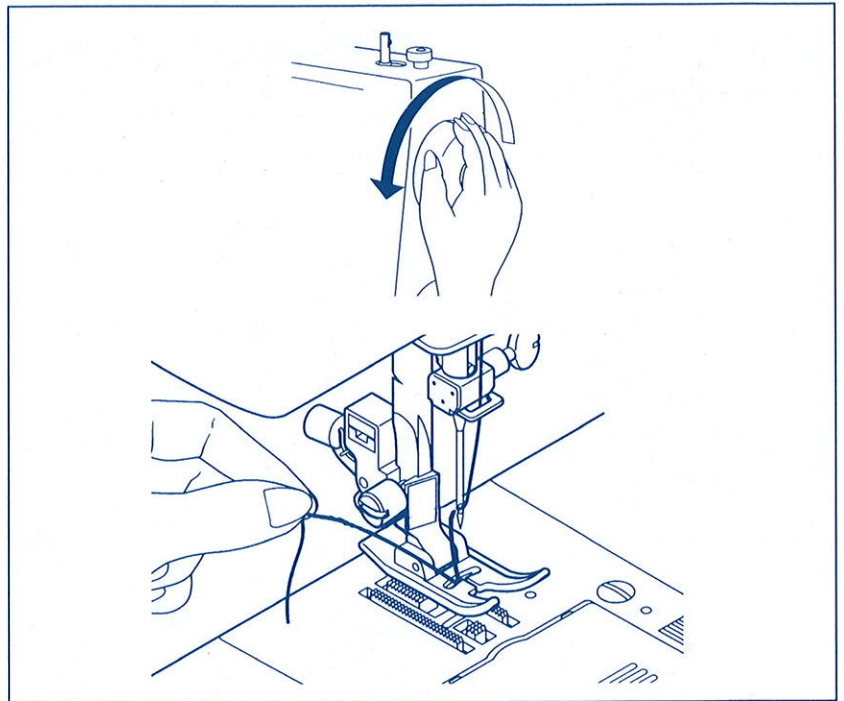
3 上糸を軽く引き上げると、下糸が引き出されます。



4 上糸と下糸をそろえて押えの下に通し、10cmほど後へ引き出しておきます。



2 左手で上糸を軽く持ち、プーリーを手前に一回転させ、再び針が上の位置になったところで止めます。



### = チェックポイント =

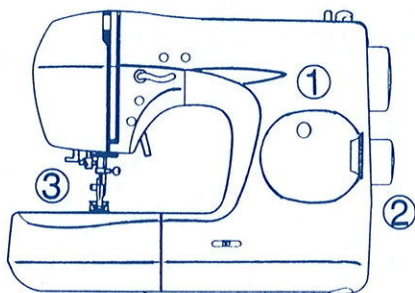
図の手順で下糸が引き上げられない場合は、次の点をチェックしてください。

1. 針に糸が通っていますか？
2. 糸が針の回りにからまっていませんか？
3. ホビンケースから糸が10cmほど出ていますか？
4. ホビンケースから出た糸がもつれていませんか？
5. ホビンケースに糸が正しく通っていますか？



## 2. さあ縫ってみましょう ……

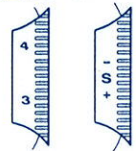
### ミシンのセットのしかた



#### 1. 縫い模様表示



#### 2. 縫い目長さ・スーパー切替ダイヤル



#### 3. 押え



ブラインド押え



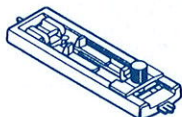
直線押え



ジグザグ押え



縁かかり押え



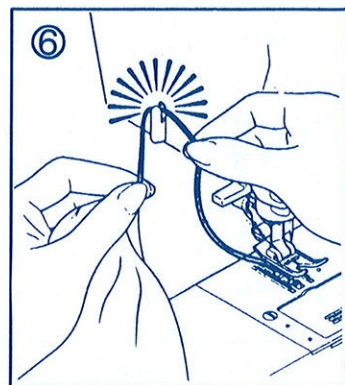
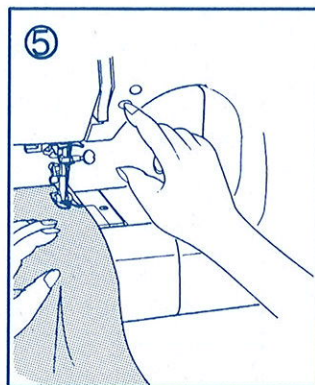
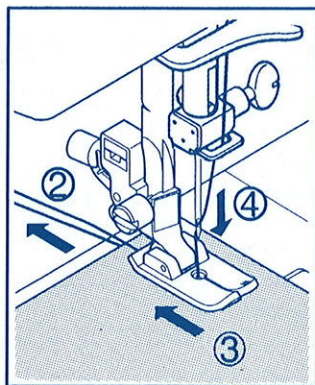
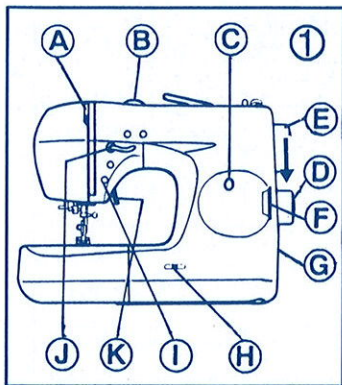
ボタンホール押え



ファスナーつけ押え

縫い模様	1. 縫い模様表示	2. 縫い目長さ・スーパー切替ダイヤル	3. 押え
直線縫い	-----	⋮	1~4 直線又はジグザグ押え
ジグザグ縫い			0.5~4 ジグザグ押え
かくし縫い (ブラインドステッチ)			1~4 ブラインド押え ジグザグ押え
シェル縫い			
点線ジグザグ縫い			
つき合わせ縫い			
ファゴティング縫い			
直線伸縮縫い			S 直線又はジグザグ押え ジグザグ押え ジグザグ又は縁かかり押え ジグザグ押え ジグザグ又は縁かかり押え ジグザグ押え
ジグザグ伸縮縫い			
オーバーエッジ縫い			
オーバーロック縫い			
パッチワーク縫い			
エラスチックオーバーロック縫い			
二重ロック縫い			
ヘリボン縫い			
ボタンホール		1□ <sup>1</sup> ⇒2□⇒3□ <sup>1</sup> ⇒4□	
ファスナーつけ	-----	⋮	

# 直線縫い



直線縫いはミシン縫いの基本ですので、試し縫いをして正しい使い方をよく覚えましょう。

- Ⓐ 天秤
- Ⓑ 上糸調子ダイヤル
- Ⓒ 縫い模様表示
- Ⓓ 縫い模様ダイヤル
- Ⓔ プーリー
- Ⓕ 縫い目長さ・スパー切替ダイヤル
- Ⓖ 電源スイッチ
- Ⓗ スピードコントロールつまみ
- ① スタート・ストップボタン
- Ⓘ 返し縫いレバー
- Ⓚ 押え上げレバー
- ① ミシンをセットしましょう。

縫い模様 「∥」  
 縫い目長さ 「2~3」  
 上糸調子ダイヤル 「標準」  
 プーリーを手前に回して、天秤をいちばん上まで上げます。

- ② 上糸と下糸をそろえて押えの下から後側へ10cmほど引き出します。
- ③ 試し縫いの布を押えの下に入れ、押えを下げます。
- ④ プーリーを手前に回して、針を布に突き刺します。

- ⑤ スタート・ストップボタンを押して縫い始めます。「はい」スピードをお望みの場合は、スピードコントロールのつまみを右に動かしてください。縫っている間は、ミシンの布送りに合わせて、軽く導いてください。布はしまで来たら、スタート・ストップボタンをもう一度押してミシンを止めます。

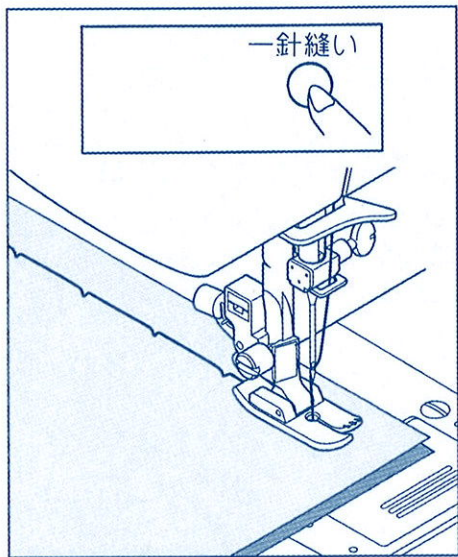
- ⑥ 針と押えを上げ、布地をうしろへ引き出し、面板部の糸切りで糸を切ります。



直線専用押えを使用中にセレクトダイヤルを回すと、針が押えに当たって危険です。直線縫い以外の模様を選択する時は、ジグザグ押えに取り替えた後、ダイヤルを回してください。

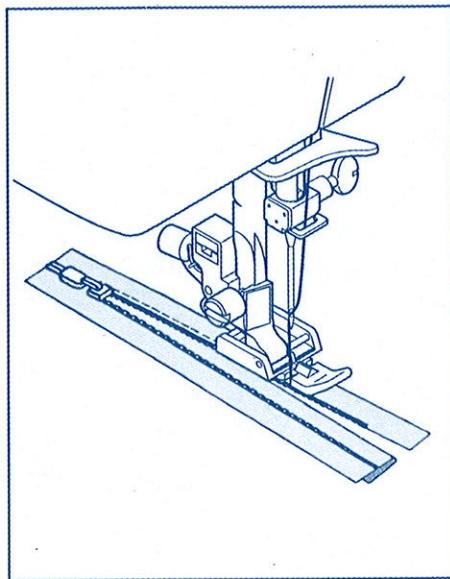
## 仮縫い(しつけ縫い)

- 1 一針縫いボタン(一針縫い)を押し、一針縫いをします。
- 2 押え上げレバーを上げ、布地を移動します。
- 3 押え上げレバーをおろし、再び一針縫いボタン(一針縫い)を押しします。



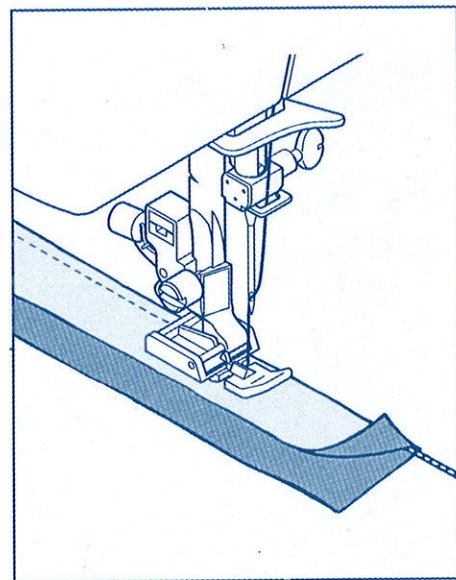
## ファスナーつけ

ファスナーの右側を縫うときは、押えの左側のみぞに針が落ちるように、押えをセットします。  
左側を縫うときは、右側に針が落ちるように押えをセットします。



## パイピング

バイアステープを外表に折るか、バイアステープでコードをくるみ、ファスナーつけ押えの右側に針が落ちるようにセットして縫います。



## 縫いにくい布地の縫い方

### 薄物(レース布、薄物布)

※ レース布や特に薄い布地の場合、布の下に紙を敷きます。

縫い終わったら、紙を取り除きます。

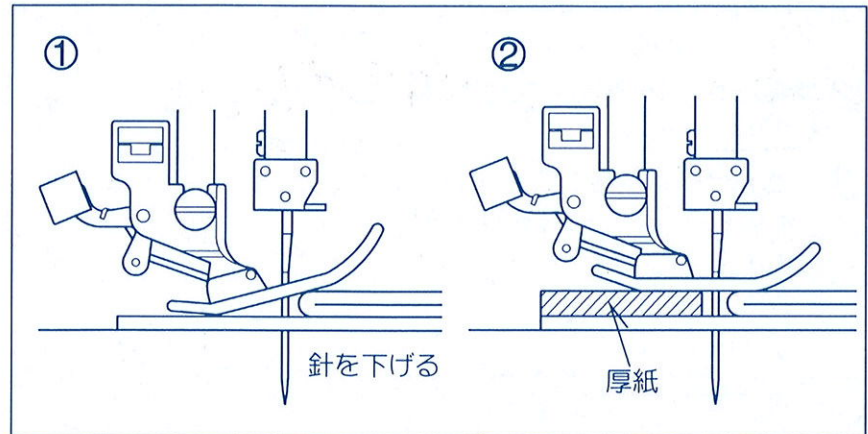
薄物縫いで目飛びしたり、しわがよる場合も紙を敷いてください。

※ 薄物の縫い始めは、上糸と下糸を少し引っ張りながら縫います。

### 厚物(タオル布)

タオル布を縫う際は、布の種類によって布送りが悪くなる場合があります。布の下に紙を敷き、太い針 #16 を使用し、ゆっくりとしたスピードで縫います。

縫い終わったら、紙を取り除きます。



### 段縫い

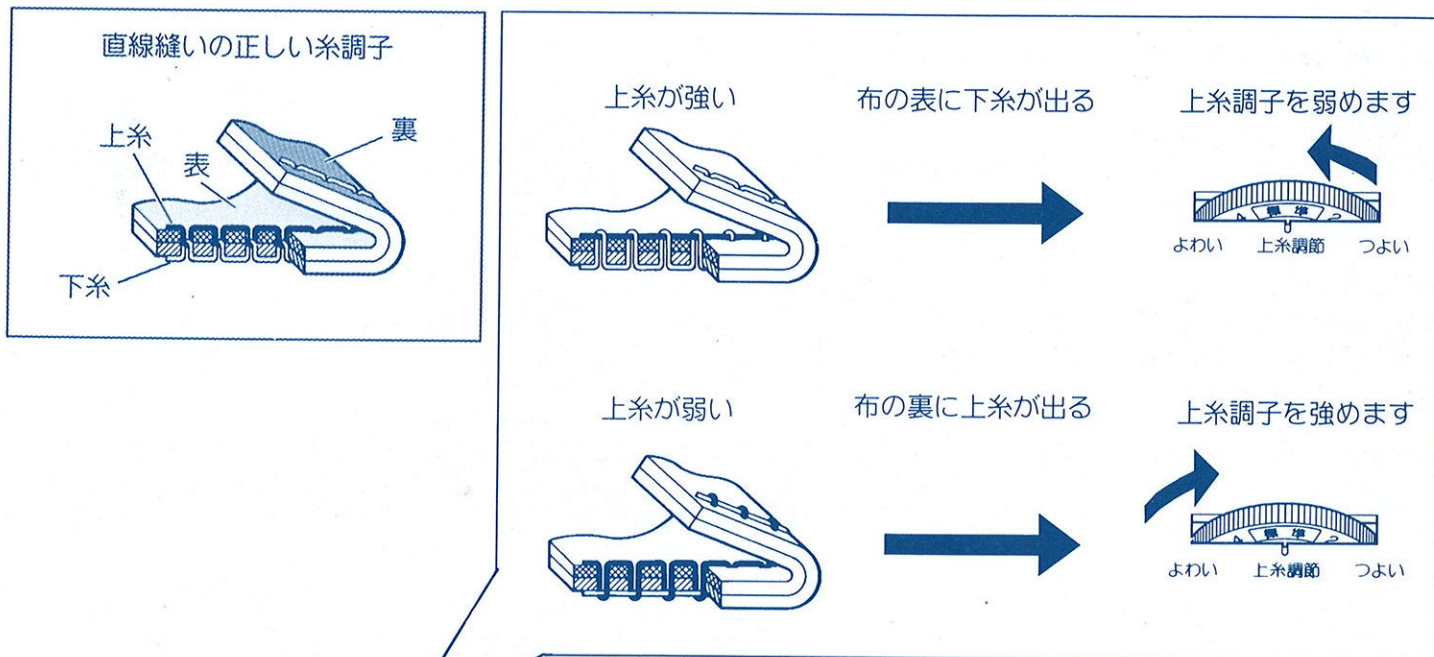
※ 布送りがスムーズでない場合、手で布の送りを助けながら縫います。

※ 図のように重なった厚地の布を縫う場合は、図①の状態でもシンを止め、針を下げます。図②の様に同じ厚さの布地または厚紙を押えの下に敷いて縫います。布送りがスムーズになり、目飛びも防げます。

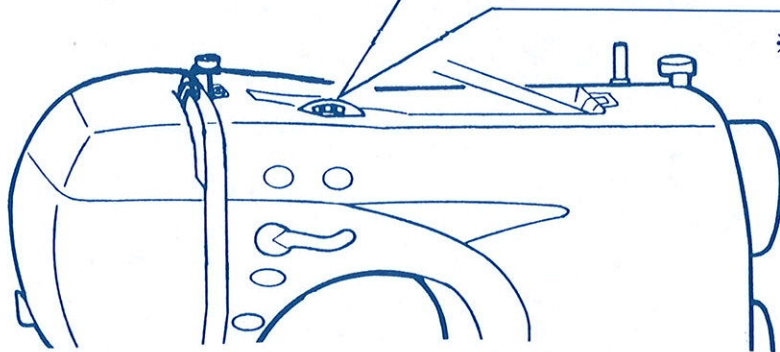
## 糸調子のとり方

直線縫いの場合、上糸と下糸が布の中間で、適当な張力をもってからみ合うのが正常な糸調子です。

※ 上糸調子ダイヤルの数字が大きくなるほど上糸調子は強くなります。(通常は標準の位置が適当です。)



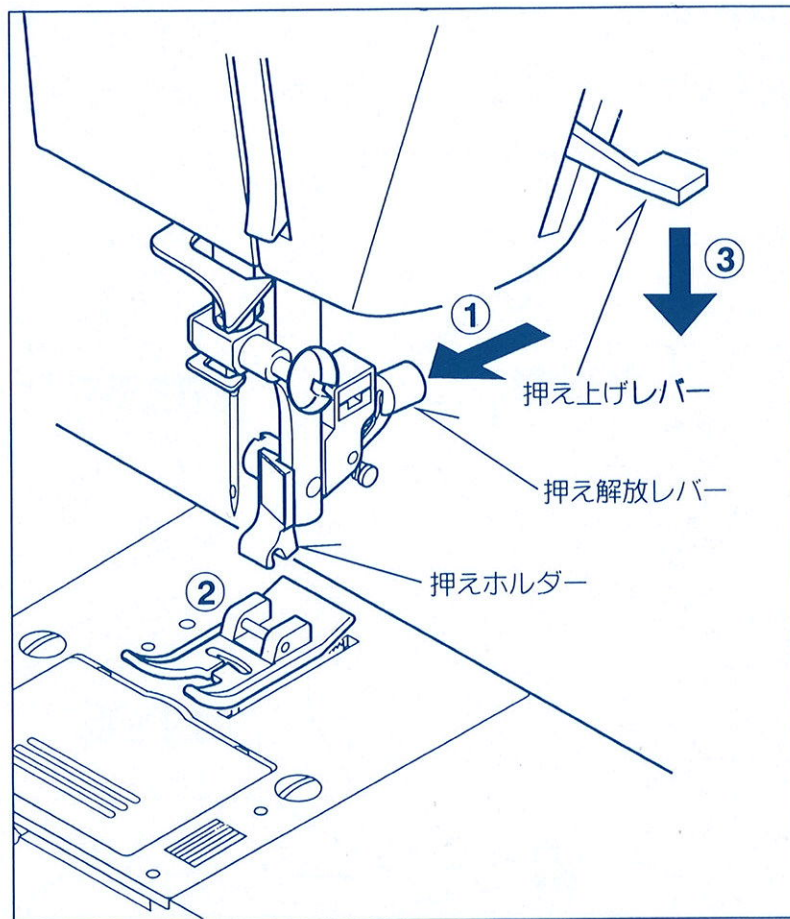
※ 本機は水平釜ですので、基本的には下糸の調節は不要です。(製造時調節済)



## 押え金のとりかえ方

押えと針を上げます。

- 1 押え解放レバーを矢印の方向へ押すと、押えがはずれます。
- 2 針板と押えの針穴が合うように新しい押えを針板の上におきます。
- 3 押え上げレバーを下げると押えがセットされます。入りにくい時は、押え解放レバーを押すと入ります。



# ジグザグ縫い

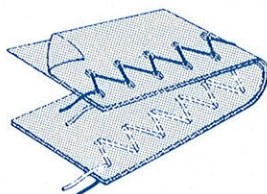
## ミシンのセット

## サテステッチ (密着縫い)

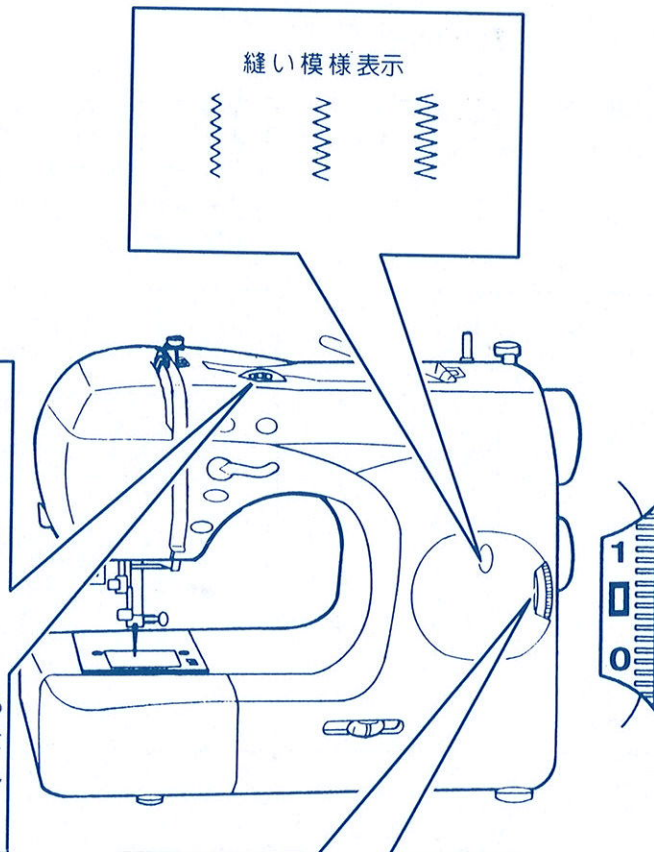
縫い模様表示



ジグザグ縫いの糸調子は



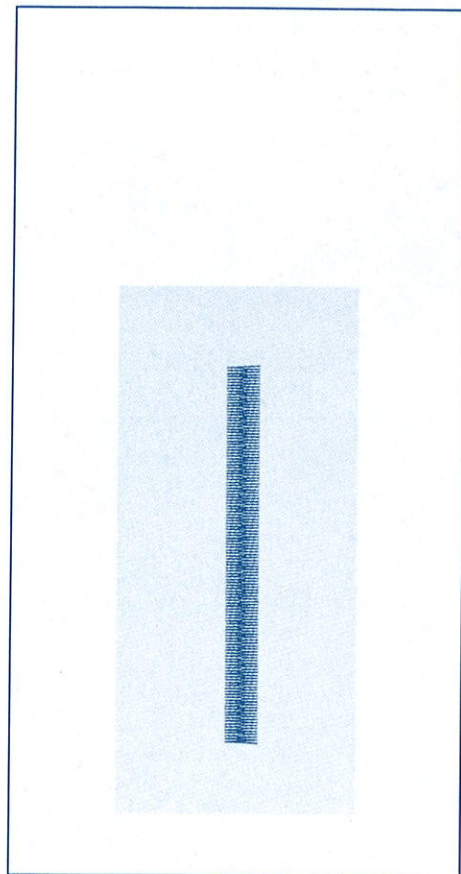
布の裏側に上糸が少し出るように、直線縫いするときより上糸調子をやや弱めにしてください。



0.5~1 1 2 3 4



ジグザグ縫いで縫い目長さダイヤルを「0.5」ぐらいにセットすると、目のつまったきれいな縫目が出ます。

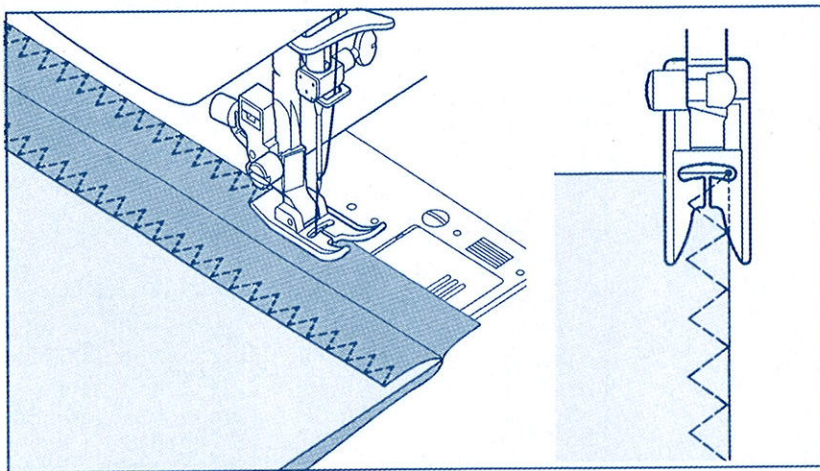


## 点線ジグザグ縫い

裁ち目かがり

縫い目長さ 2

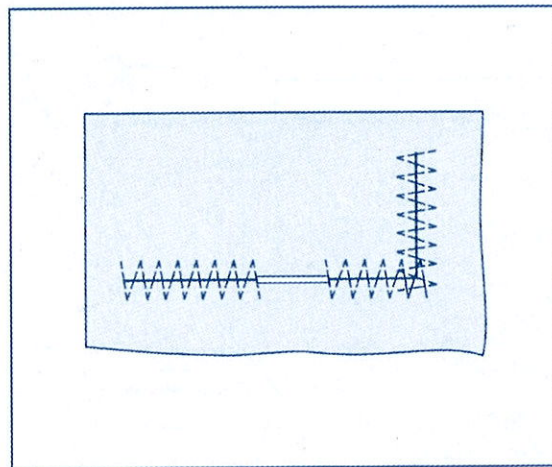
点線ジグザグ縫いは、ジグザグ縫いが一針で縫うところを三針で縫いますので、丈夫に縫え、伸縮性があります。どのような種類の布の裁ち目かがりにも使えます。



つくろい縫い

縫い目長さ 0.5

布の裂け目をつくろうには、裂け目を押えの下に置き、針が裂け目の両側を拾うように縫います。裂け目の角を縫う場合は、両側から角の中心に向かって縫っていきます。裂け目の下に布を一枚あててやると丈夫につくろえます。





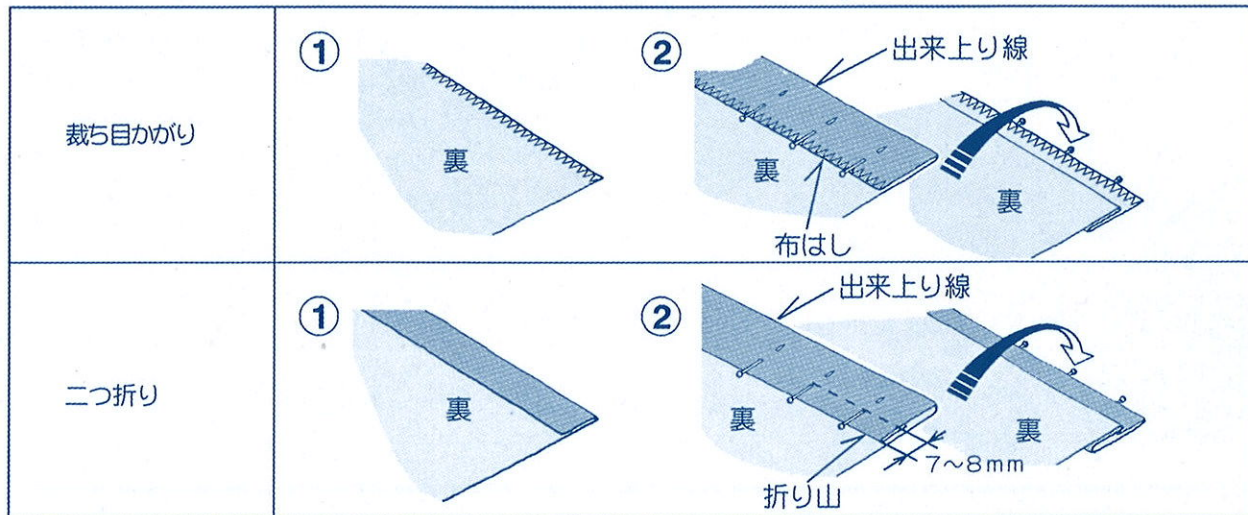
# かくし縫い（ブラインドステッチ）

かくし縫い < — 普通地に適しています。

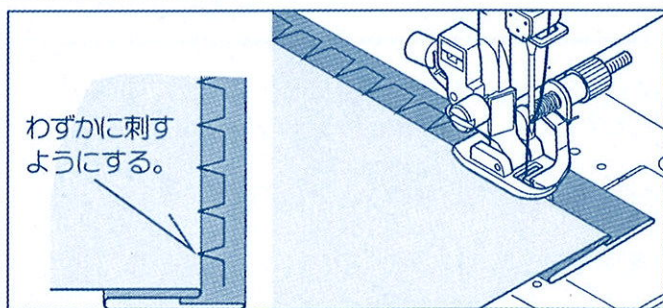
伸縮かくし縫い ≋ — 伸縮性の布地に適しています。

二つ折りにします。

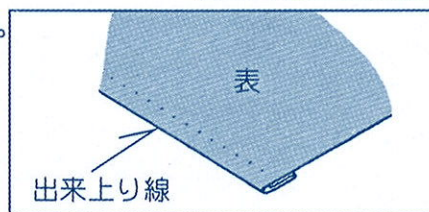
そに向って、図のように待ち針で止めます。待ち針を持って折り返します。



**3** 針が左に落ちるとき、針が折り山をわずかに刺すように縫っていきます。待ち針は押えの手前に来たら順に抜いていきます。



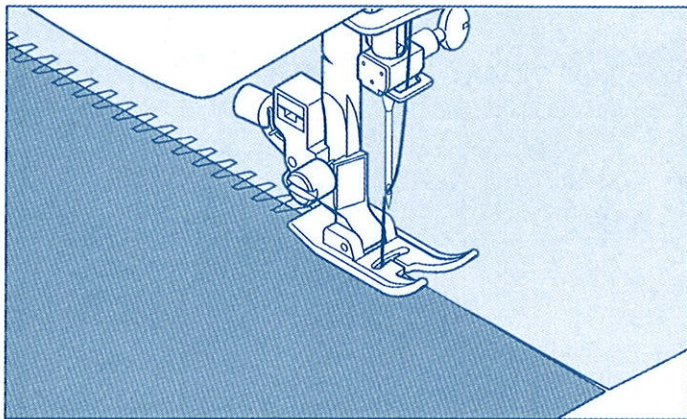
**4** 布を表に開くと出来上りです。



## つき合わせ縫い

布と布をつき合わせます。つき合わせの中央を押え金の中央に合わせて縫ってください。

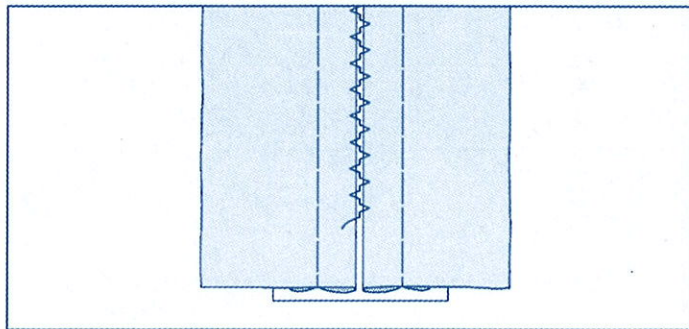
縫目がきれいなので、はぎれなどを利用して、クッション、テーブルセンターなどを作る時に利用できます。



## ファゴット

布端と布端の間をはなしたままつなぎ合わせる方法で、子供服、手芸用品の飾り、室内装飾の小物などに活用します。

- 1 2枚の布を裏側に折り返し、布地の端を0.3~0.5cmあけて紙の上のせて仮止めします。
- 2 布表から縫います。
- 3 縫い終わったら、仮止めとあて紙を取り除いてアイロンをかけます。



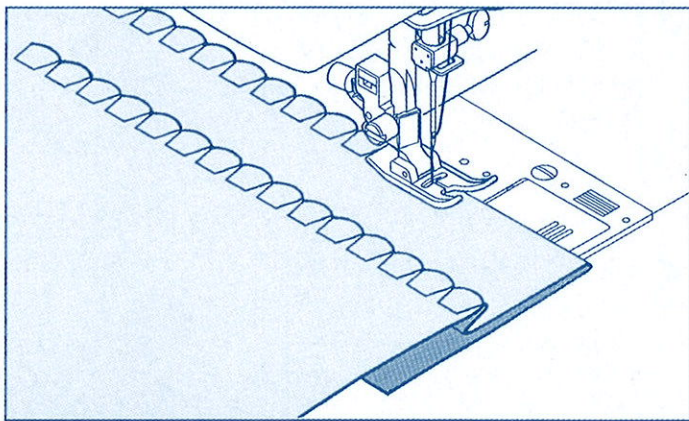
## シエル

シエルステッチは、その名の通り貝殻を一直線に並べたような装飾模様として使えますので、ランジェリーやガウンの仕上げに最適です。

針が右側に落ちる時、布地にかからないようにして縫ってください。

縫う前に、はぎれを使ってテスト縫いされることをおすすめします。

- ⑧ 上糸の糸調子を通常の場合より少し強めにします。ほつれやすい布地を縫う場合に適します。



# スーパー縫い (ストレッチステッチ)

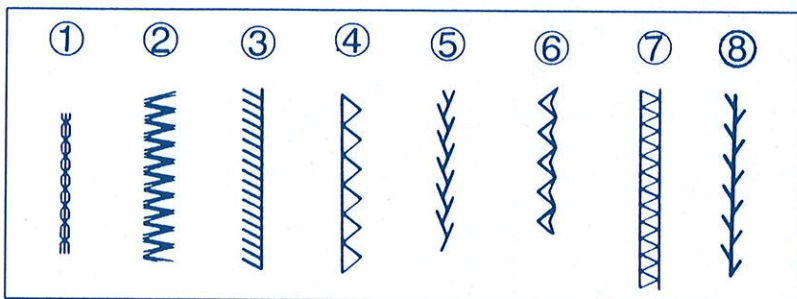


縫い目長さの調整 縫い目長さ・スーパー切替ダイヤルのSの位置で常に  
バランスのとれた美しい伸縮縫い出来ます。

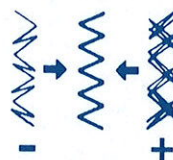
- |             |                   |
|-------------|-------------------|
| ① 直線伸縮縫い    | ⑤ パッチワーク縫い        |
| ② ジグザグ伸縮縫い  | ⑥ エラスチックオーバーロック縫い |
| ③ オーバーエッジ縫い | ⑦ 二重ロック縫い         |
| ④ オーバーロック縫い | ⑧ ヘリボン縫い          |

## 模様形状の整え方

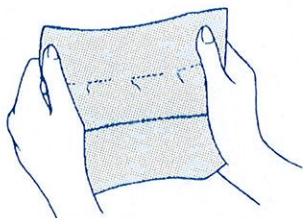
伸縮縫いは、使用される布地によって伸びたり縮んだりすることがありますので+・-の縫い目バランス調節位置で調整します。(伸びた場合は「-」、縮んだ場合は「+」に合わせます。)



## ジグザグ伸縮縫い



### ① 直線伸縮縫い



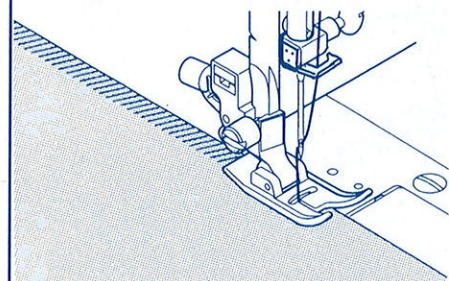
図のように布地をひっぱると、普通の縫いでは糸が切れますが、伸縮縫いは縫い目が伸び縮みして糸が切れません。

### ② ジグザグ伸縮縫い



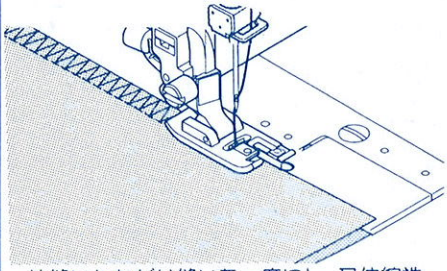
縫い目に伸縮性があるので、ニットや、ジャージ、トリコットなどの伸縮性のある布地に適しています。

### ③ オーバーエッジ縫い



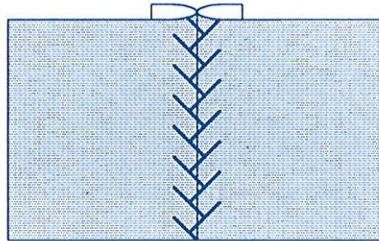
トリコットや柔らかいジャージのような伸縮性のある布地に最適です。

④ オーバーロック縫い 



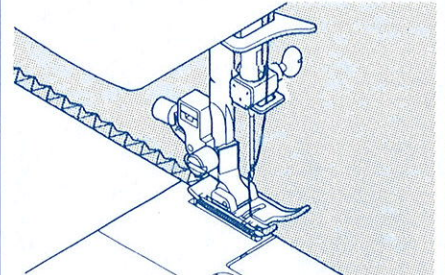
地縫いとかがり縫いを一度にし、又伸縮性があるので、ブラウス地や綿ジャージ、薄い生地の縫い代の仕上げを始めとし、小物、手芸品などの飾り縫いに最適です。針は14番以上は使用しないでください。

⑤ パッチワーク縫い 



布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろをわります。布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。

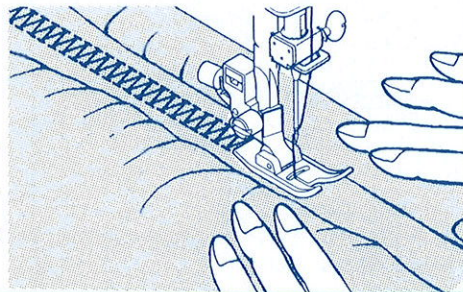
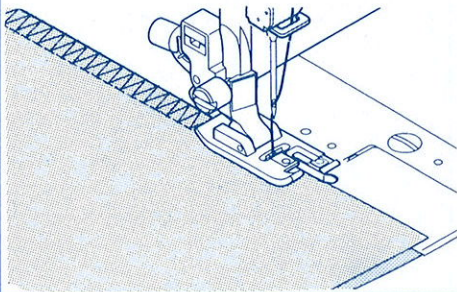
⑥ エラスチックオーバーロック縫い 



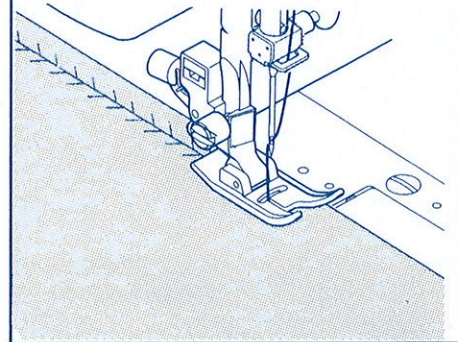
地縫いと裁ち目かがりを一度にし、地縫い部分がジグザグ縫いになっていますので、伸縮度の大きい布地に適しています。

⑦ 二重ロック縫い 

布地の裁ち目がほつれるのを防ぎます。ニット・ジャージなどの伸縮性のある生地に最適です。平ゴム・毛糸などを縫い付ける場合もご利用ください。針は14番以上は使用しないでください。



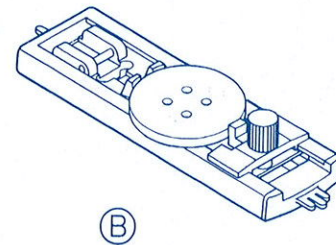
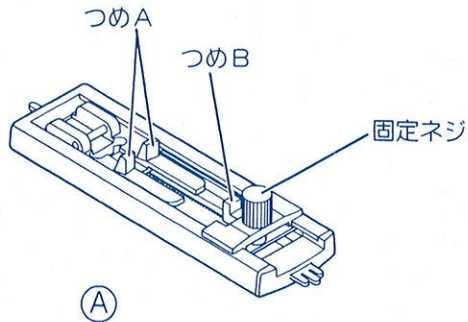
⑧ ヘリボン縫い 



# ボタンホール（ボタン穴かがり）

1 2 3 4

## ボタンホール押えの使い方



① 押え金をボタンホール押えに交換して下さい。

② 固定ネジをゆるめた状態で手前に引き寄せます (A)。

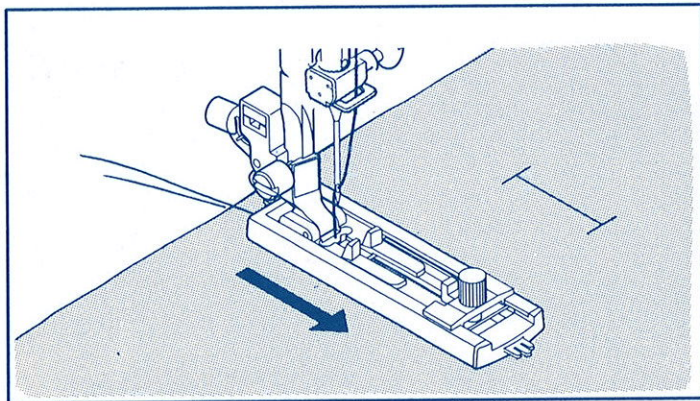
③ つめAとつめBの間にボタンをはさむようにして置き (B)、固定ネジで固定します。

④ ボタンを取り除き、可動範囲でボタンホール縫いを行えば、ボタンの大きさに応じたボタンホールが出来ます。

## 縫い始めのセット



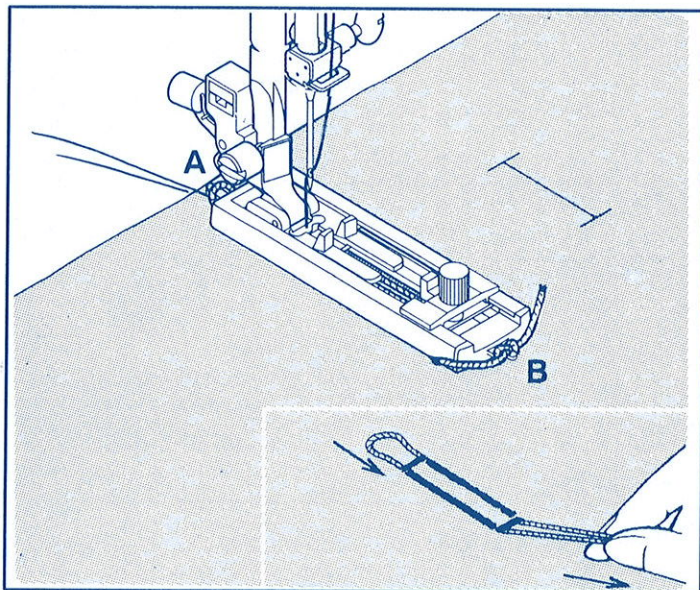
- ※ ボタンホール押えをセットし、押えを手前にいっぱい引っ張り出し、縫い始めの位置に合わせて押えを下げます。
- ※ 伸縮性のある布地で、進みにくい場合は、布地の下に不織布の接着芯を張ってください。
- ※ 使用される布切れで試し縫いをされることをおすすめします。



## 縫い方

<p>①</p> <p>1</p>		<p>矢印の方向へ必要な長さだけ縫ってください。</p>
<p>②</p> <p>2・4</p>		<p>左右に4～5針縫ってください。</p>
<p>③</p> <p>3</p>		<p>自動的にバック縫いしますので、縫い始めの線まで縫ってください。</p>
<p>④</p> <p>2・4</p>		<p>左右に4～5針縫ってください。</p>
		<p>縫い終わったらリッパーで中央の布地を切り開きます。その際縫い糸を切らないように注意してください。</p>

## 芯入りボタンホール



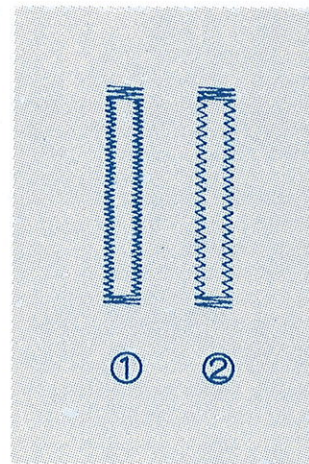
芯糸を入れて縫うと、ボタン穴の伸びを防ぎ、強いボタン穴ができます。芯糸にはレース糸または穴糸を使います。芯糸をボタンホール押えのうしろの突起(A)に引っかけて、押えの下を通して前の突起(B)に結び付けます。このまま押えを取りつけて穴かがりすると、芯糸入りのボタンホールができます。縫い終わったら芯糸を押えからはずし、糸の端を引いてたるみをなくし、余分の糸を切り取ります。

## 縫目のバランス調整

あらくする場合



こまかくする場合



使用する布地の種類や厚さによって、縫い目のあらかさを調整します。

①縫い目をこまかくするには、ダイヤルを“0”の方へ回します。

②あらくするには、“1”の方へ回します。

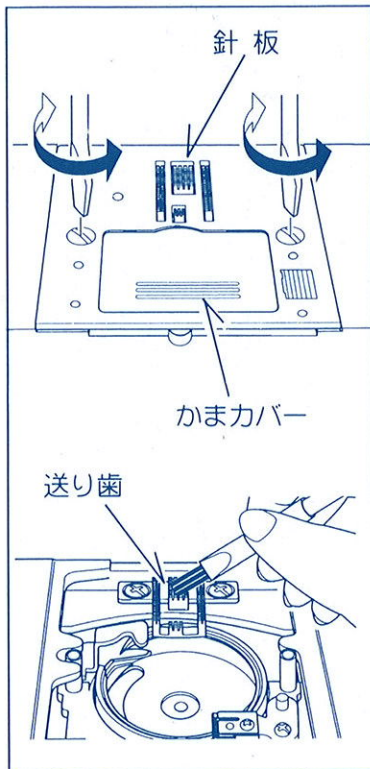
### 3. ミシンのお手入れ ……

#### かま及び送り歯の掃除

ミシンを長もちさせるためには、日常の手入れが大切です。  
手入れをするときは安全のために、電源プラグを電源から抜いてください。

#### 送り歯の掃除

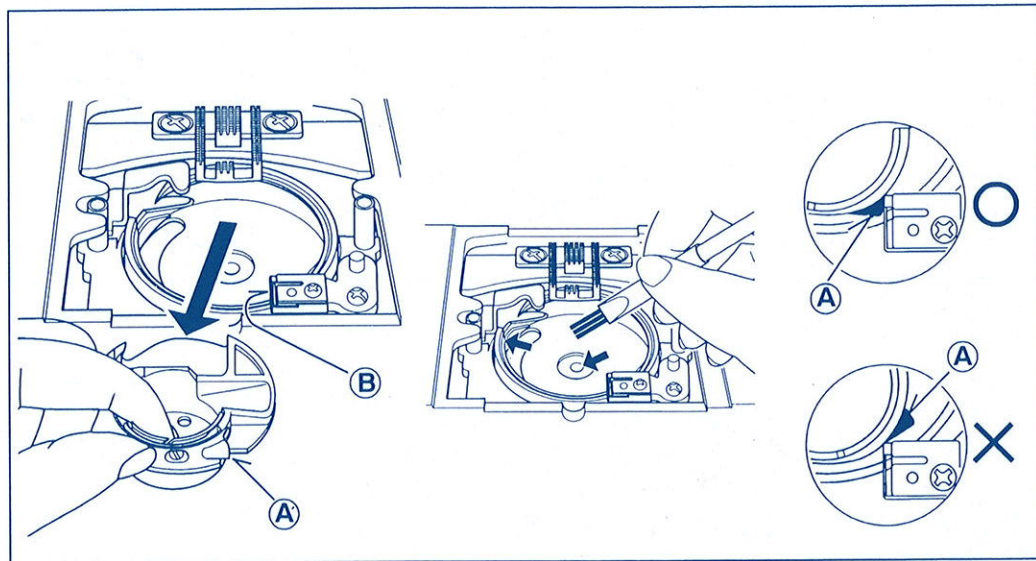
針板、かまカバーをはずして送り歯及びかま周辺の糸くずなどを、付属のブラシで取り除きます。



#### かまの掃除

プーリーを手前に回して針を最上点に上げます。

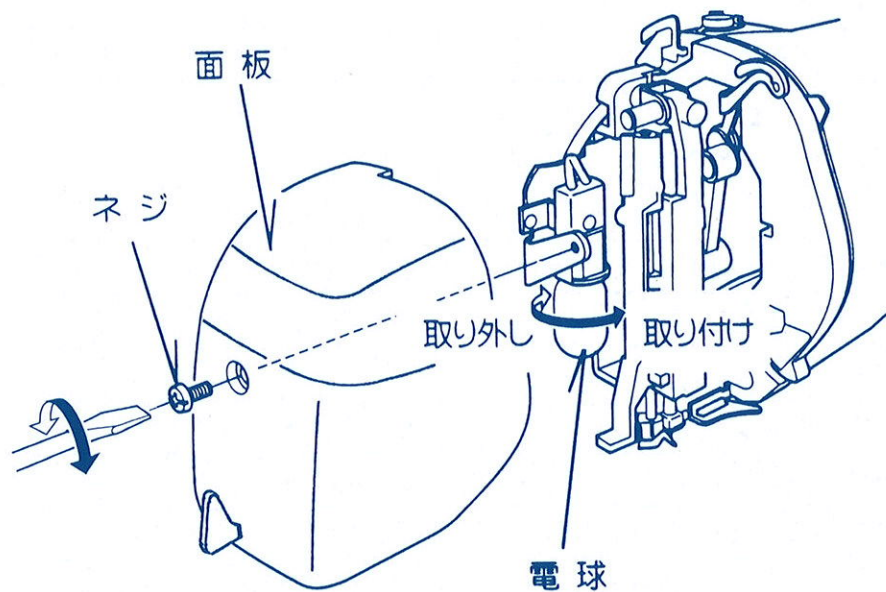
- 1 ボビンケースを図のように抜き取ります。
- 2 かま内部のほこりをブラシできれいに取り除きます。溝隅のほこりが取れにくい時は爪楊枝でかまに傷をつけないようにして取り除きます。矢印の部分にミシン油を一滴さします。  
② 差しすぎた場合には、きれいにふき取ってから、ボビンケースをかまに入れてください。
- 3 ボビンケースの突起部 ① がストッパー ② の左側にくるようにかまに入れます。針板、かまカバーを取りつけます。





## 電球の取りかえ

- 1 電源プラグを電源から抜いてください。
- 2 ネジを外し、面板を取り外します。
- 3 電球を左に回して取り外し、新しい電球 (110 V、15 Wネジ込み式) を右に回して取り付けます。  
⑧ 15 W以上の電球を使用しないでください。
- 4 面板を元の位置に取り付けます。



## 4. ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう ……

こんな時には	原因	対処	参照 ページ
ミシンが 回らない	下糸巻き軸が右になっている。	下糸巻き軸を左へ押します。	8
	電源コードがただしくセットされていない。	正しくセットし直します。	5
	電源スイッチが“OFF”の位置にある。	スイッチを“ON”の位置にセットします。	5
回転が重い 音が高い	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	29
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	10
布を送らない	押えを下ろしていない。	押え上げレバーを下ろして、押えを下げます。	—
	縫い目長さダイヤルが“0”の位置にある。	ダイヤルを“1～4”に合わせます。	—
	厚物縫いの場合		17
縫い目かとぶ	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	10
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	10
	針が針棒のいちばん奥まではいっていない。	正しくつけ直します。	10
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	18
	上糸の掛け方が間違っている。	正しくかけ直します。	11
	糸くずがかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	29
	縫いにくい布地の場合		17
針が折れる	無理に布を引っ張った。	布は軽く案内するだけにしてください。	—
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	10
	針が針棒のいちばん奥まではいっていない。	正しくセットし直します。	10
	押えが正しく取り付けられていない。	押え止めネジを締め直します。	—
	段縫いの場合		17

こんな時には	原因	対処	
糸が 布と針板の間で だんごになる	縫い始めに上糸と下糸を向こう側に引き出して いない。	常に両糸をそろえて押えの下から向う側へ 10cmほど引き出します。	13
上糸が切れる	上糸の掛け方が間違っている。	正しくかけ直します。	11
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	18
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	10
	針が曲がっている。	新しい針と取り換えます。	10
下糸が切れる	ポビンケースの糸の通し方が間違っている。	正しくセットし直します。	9
	糸くずがポビンケースやかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	29
縫い物に しわがよる	糸調子が強すぎる。	糸調子を弱めます。	18
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	10
	薄物に対して縫い目が大きい。	縫い目を小さくします。	-
	薄物縫いの場合		17
上糸がかまに からまって 取り除けない	上糸をすこしゆるめ、プーリーを手前に回して糸を引き上げます。		-
	かまにからまっている糸をはさみで切って取り除きます。		-
	ポビンケースの位置がずれている。	正しい位置にセットします。	29

## 5. フットコントローラーの使い方 …… (別売り)

### ◆ 電源のつなぎ方

電源スイッチを「OFF」にしてください。

電源コードのプラグを①、②の順にさしこみます。

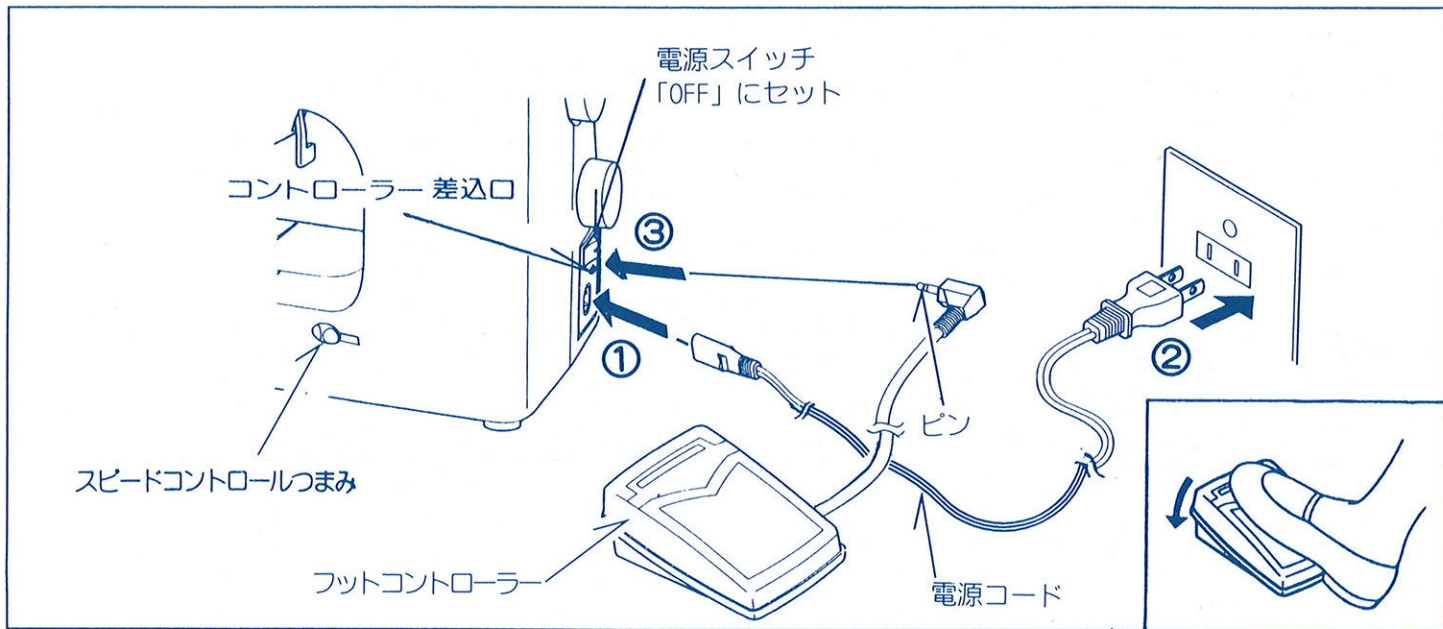
フットコントローラーのピン③をミシンのコントローラー差込口にさしこみます。

### ◆ スタート

フットコントローラーを深く踏むとミシンの回転は速くなります。最初は軽く踏んでゆるい速度で縫い始めてください。

フットコントローラーの接続中は、スタートスイッチは使用できません。

⑧ フットコントローラーを使用する場合、スピードコントロールつまみの設定位置が、フットコントローラーの最高速度になります。



注意

ミシンを使用しない時は、必ず電源スイッチを切り、電源コードを電源から抜いてください。

# 株式会社 ジューキ

本社／〒102-0073東京都千代田区九段北1-11-11 TEL03(3265)2851(代表)

札幌	011 (737) 6821	仙台	022 (239) 3705	新潟	0250(43)4451
東京	03 (3265) 8741	名古屋	052 (962) 7631	大阪	06(6768)3651
倉敷	086 (473) 0355	広島	082 (227) 5781	福岡	0942(44)7921

修理等のご依頼はお買い上げの販売店を通じてご連絡ください。